



E5-TRT病棟の運用開始について

～標的アイソトープ治療(Targeted Radionuclide Therapy : TRT)対応病室の運用開始～

京都府立医科大学附属病院では、標的アイソトープ治療の一つである前立腺がんに対する新しい放射線治療薬プルヴィクト (^{177}Lu -PSMA) による治療を泌尿器科と放射線科で連携し、2026年1月から開始しております。この度、より多くの患者さんの治療を可能とするため、2026年6月からE5-TRT病棟として専用病床2床を整備し、運用を開始しました。

当該治療は、転移性去勢抵抗性前立腺がんに対する最新の治療であり、ホルモン療法等の従来の治療で効果が不十分となってしまった方に対する新たな治療の選択肢です。

標的アイソトープ治療	放射線を出すアイソトープ(放射性同位元素)とがん細胞を認識する薬を組み合わせた薬剤を投与し、アイソトープそのものを体内のがん細胞に取り込ませることでがん細胞内部から直接放射線を照射する治療法
プルヴィクト	2025年11月から保険診療開始となった、PSMA(前立腺特異的膜抗原)とアイソトープを組み合わせた治療薬。前立腺がんの細胞表面に多く存在するPSMAに結合し、次いで細胞に取り込まれたアイソトープががん細胞を内部から攻撃する。【図1参照】
治療対象者	次の①～③の条件を満たすこと ①転移性去勢抵抗性前立腺がん(mCRPC) ②新規アンドロゲン受容体シグナル阻害薬(ARSI)を1種類以上使用している。 ③PSMA-PET検査でPSMA陽性の遠隔転移を有する。
治療スケジュール	事前検査(PSMA-PET/CT検査、採血検査等) → 治療(投与(約6週間ごとに1回(最大6回)、入院(通常1泊)) 【図2・3参照】
担当診療科	泌尿器科(教授:浮村 理)・放射線科(教授:山田 恵)

【担当医師(泌尿器科 白石医師)のコメント】

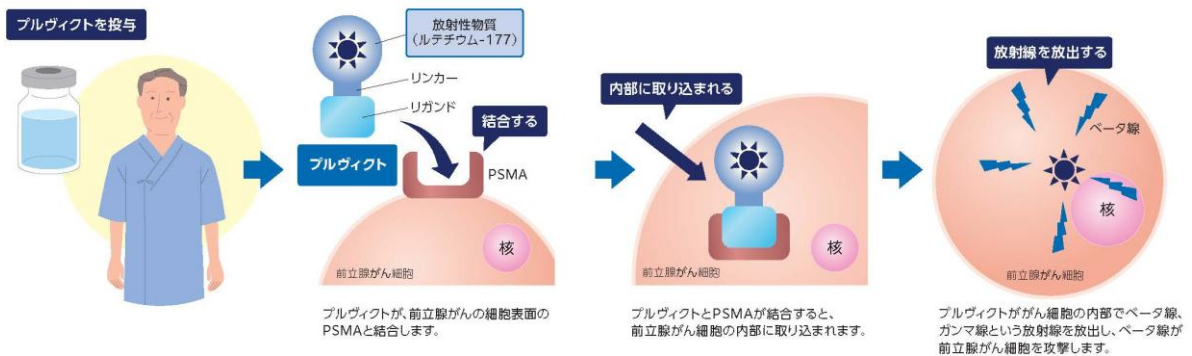
プルヴィクト治療は、これまで治療選択肢が限られていた患者さんにとって新たな希望となる治療です。専用の対応が必要であり、当院では、泌尿器科、放射線科が連携し、安全かつ質の高い治療提供を目指しています。適応は総合的に判断させていただきますので、ご希望の方は、ぜひ泌尿器科までご相談ください。

【担当医師(放射線科 増井医師)のコメント】

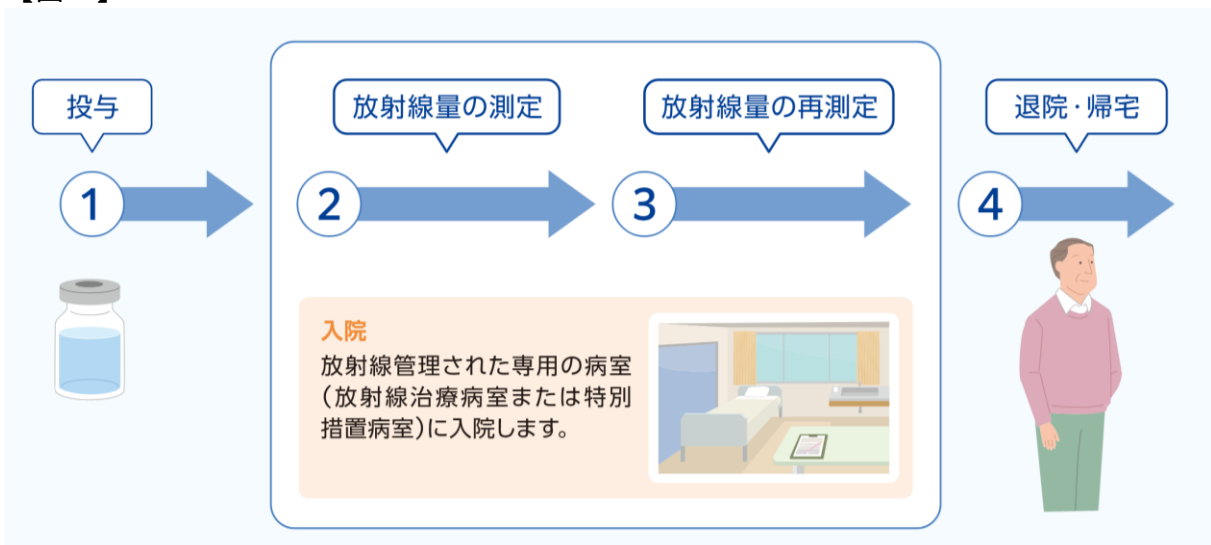
がん細胞への運び屋であるお薬とアイソトープ(放射線を出す元素)を組み合わせたユニークな放射線治療です。投与後一時的に体内から放出される放射線の管理を必要とします。放射線科として、この新しい治療を安全に提供できるように努めてまいります。

【図 1】

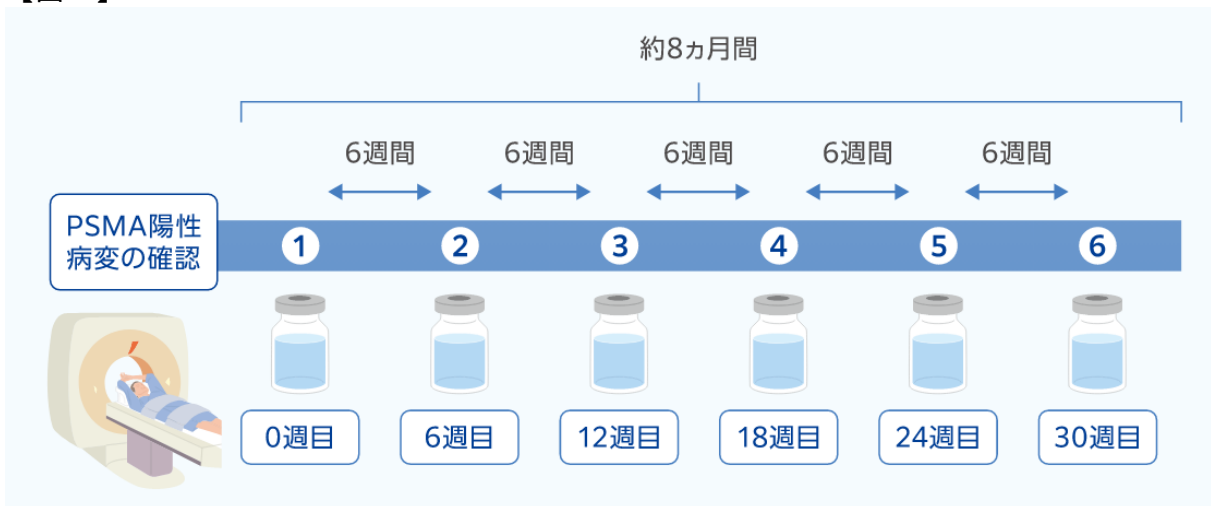
プルヴィクトの働き(イメージ)



【図 2】



【図 3】



※ 図：ノバルティス ファーマ株式会社資料より抜粋

本治療にご興味がある方や、ご自身が対象になるかどうか詳しくお知りになりたい方は、まずは現在の主治医の先生へご相談ください。